

---

## 5月18日 キリストの証人となる 教理説教のための聖書黙想

---

テキスト  
参照教理問答

ルカによる福音書 24章36～49節  
ウェストミンスター大教理問答 問2～5 (特に問4)  
ハイデルベルク信仰問答 問21  
ジュネーブ教会信仰問答 問300～308 (特に問303)

---

### 〈聖書テキストの解説と黙想〉

36節「こういうことを話している」との主語は弟子たち。話していた内容は、直前の32～35節に記されている。「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」、「本当に主は復活して、シモンに現れた」、「道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった」という人の話を聞いて話し合っていたのだが、その彼らの真ん中にイエスご自身が立たれると、「彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った」(37節)。人は、聖書の説き明かしを聞いて心が燃える体験をした人の話、復活の主が現れてくださった人の話を、自分の救いと関係なく聞いているときには、生きておられるイエス・キリストに直接現れられると、恐れおののいてしまうものだ、ということに気づかされる。

イエス・キリストは「わたしの手や足を見なさい」(39節)、「手と足をお見せになった」(40節)、「彼らの前で(彼らの目の前で)食べられた」(43節)とあるように、生きた人間としてのリアリティをもつ姿を、弟子たちの目の前に示された。イエス・キリストは、私たちが主とそのようにリアルに出会うことを望んでおられる。

同時代に生きていない私たちには、イエス・キリストはどのようにご自身をリアルに現してくださるのだろうか。それが44節に書かれている。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する」とは、「わたしのことは旧約聖書に全て記されているから、読んで悟りなさい」との促しであることは、45節で、イエス・キリストが「聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて」くださっていることからわかってくる。

48節に「あなたがたはこれらのことの証人と

なる」とあるが、私たちがキリストの証人となるのは、弟子たちのように目撃したからではなく、旧約聖書に書かれているイスラエルの救いがイエス・キリストにおいて全て成し遂げられたということを、心開かれてはっきりと知ることによる。イスラエルの救いが記されている旧約聖書を、自分の物語として読むことによって、私たちは一人一人、自分たちの罪深さを知り、悔い改めへと導かれ、イエス・キリストにおいて成し遂げられた救いの道を示される。47節の「罪の赦しを得させる悔い改め」という言い回しは3:3でも出てきており、ルカ福音書が初めから終わりまで「罪の赦しを得させる悔い改め」を宣べ伝えようとして書かれたことがわかる。

旧約聖書を読んで理解することは、自力ではできない。そのために49節でキリストは聖霊を送るという約束をくださった。49節は原文を見ると、「見よ、わたしが送る」と書きだされている。そしてそれに対比させるようにして「あなたがたは都にとどまっていなさい」となっている。13～35節に出てくる二人の弟子は、イエス・キリストが死んでしまったので、都エルサレムを離れて、故郷であるエマオに戻ろうとしていたのではないかと言われている。そのように、エルサレムを離れようとしていた弟子たちに対して、「都にとどまっていなさい」と言われている。弟子たちは、この先、生まれ故郷に戻って、元のように生きるのではなく、キリストの証人として「あらゆる国」に遣わされようとしているからである。

「あなたがたに平和があるように」(36節)という言葉から始まった復活のイエス・キリストとの「出会い」は、弟子たちの心を、「恐れおののき」(37節)から「喜び」(41節)を通り越して、「大喜び」(52節)の状態に変えた。イエス・キリストに旧約聖書を示されて、リアルにイエス・キリ

ストに出会うと、このような喜びにあふれさせて  
ただけて、平和のうちに歩むことがゆるされる。  
ここでイザヤ書55章の全体を開いて読んでいた  
だきたい。そうすれば、「主に立ち帰るならば、  
主は憐れんでくださる。わたしたちの神に立ち帰  
るならば、豊かに赦してください。（中略）わた  
しの思いは、あなたたちの思いを、高く超えてい  
る。（中略）わたしの口から出るわたしの言葉も、  
むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわ  
たしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命  
を必ず果たす。あなたたちは喜び祝いながら出で  
立ち、平和のうちに導かれて行く」と書かれてい  
ることが、弟子たちの姿、ひいては私たち自身の  
姿に重なってくるのがわかるだろう。

このように私たちは、「聖書に書かれているこ  
とは本当だ」ということを証しするように召され  
ているのである。こののち弟子たちは、約束され  
ていた聖霊をいただいて、大胆にイエス・キリス  
トを証しはじめる。そのときに旧約聖書にもと  
づいて語っていることを無視してはならない。

### 〈参照教理問答について〉

ハイデルベルク信仰問答問21は次のとおり。

問21 まことの信仰とは何ですか。

答 それは、神が御言葉において  
わたしたちに啓示されたことすべてを  
わたしが真実であると確信する、  
その確かな認識のことだけでなく、  
福音を通して聖霊がわたしのうちに起こし  
てくださる、  
心からの信頼のことであります。  
それによって、他の人々のみならずこのわ  
たしにも、  
罪の赦しと永遠の義と救いとが神から与え  
られるのです。  
それは全く恵みにより、ただキリストの功  
績によるものです。

ジュネーブ教会信仰問答では、「信仰者の交わ  
りの中で救いの教理が説き明かされる集い」で御  
言葉が聴かれること（問答304）、「彼ら（牧師）  
の口を通して」（問答307）ということが記され

ている。礼拝の場で聖書の説き明かしを聴くこと  
の重要性が確認されていることは、大変興味深い。

### 〈子どもたちに対して〉

たとえ子どもであっても、聖霊なる神は、その  
心に働きかけて、罪を自覚させ、悔い改めへと導  
かれる。イエス・キリストを救い主として受け入  
れさせてくださる（私は7歳の時にそれを経験し  
ている）。

また聖霊なる神は、啓明の光を子どもにも与え  
てくださり、それまで何度となく聞いてきた聖書  
の話の本当の意味（奥義）を知らせてくださる（私  
は14歳の時からそれを経験している）。そのとき  
の気持ちはまさに、「聖書を説明して下さった  
とき、わたしたちの心は燃えていたではないか」  
（ルカ24:32）とあるとおりだった。

契約の子は、明確な回心の体験を持たないまま  
成長するかのように言われており、実際そのよう  
に感じている人が多いようだが、私に関して言え  
ば、7歳の時だけでなく、信仰告白後しばらく経っ  
て30代のときに、ペトロが泣き崩れるように、「主  
を裏切ってしまった」と激しく涙する体験を与え  
られたし、また、長い信仰生活の歩みを経て、70  
歳を超えてから、涙の体験を与えられた方をも  
知っている。だから、契約の子であるかないか  
にかかわらず、人は必ず、涙の体験を持ってイエス・  
キリストに出会うことになっていると思う。

大人になってから信仰を持った人には理解し難  
いことかもしれないが、子どもの信仰・子ども自  
身とキリストの関係は存在している。

子どもたちには、字が読めるようになる前から、  
旧新約にわたる聖書の物語を何度も聞いてほしい  
し、また、自分でも読んでほしいと思う。子ども  
のときほど、悪いことをして叱られる、というこ  
とがあると思うが、そのなかでイエス・キリス  
トの眼差しを感じ、赦しを体験してほしいと思う。  
中学になると、日曜学校から離れるケースが多い  
と思うが、10代の時にこそ、聖書の本当の意味  
が知られるので、教会に通い続けてほしいと思  
う。それらの営みの中に聖霊なる神が働かれて、  
子どもたちは、立派なキリストの証人になってい  
く。（赤石めぐみ）

テキスト ルカによる福音書 24章36～49節

### (単元のねらい)

次の3点を子どもたちに伝えたい。

- ・復活して今も生きておられるイエス・キリストは、私たち一人一人に、はっきりと出会ってくださるといふこと。
- ・そのためには、聖書（とりわけ旧約聖書）にイエスさまのことが書かれているのを読んで知ることが大切だといふこと。それを知るには、聖霊の助けが必要であること。また、礼拝の場での説き明かしを聞く必要があること。
- ・「キリストの証人となる」とは、イエスさまについて、また自分の救いについて、聖書に書いてあることは本当だ、ということをおの人に伝えること。

## メシア(キリスト)について、聖書に書いてあることは本当です

エマオから帰ってきた二人の弟子や、エルサレムに残っていた11人の弟子たちが、イエスさまが復活なさって自分たちに現れてくださった、ということをお話し合っていました。イエスさまは、十字架の上で死んでしまわれ、お墓に葬られたのに、イエスさまが現れたって、どういうことなのかなあ、すぐに見えなくなっちゃったけど、ほんとうに生きていらっしゃるのかなあ、と、弟子たちはよくわからなくて、話し合っていました。

そうやって話し合っているときに、イエスさまが本当にそこの場所に現れられました。急に真ん中に立たれたからでしょうか、弟子たちは、イエスさまのことについて話し合っていたのに、本当にイエスさまが現れると、驚いて、恐ろしくなっていました。

怖がっている弟子たちに、イエスさまは、「わたしの手や足を見なさい」とおっしゃって、見せてくださいました。「何か食べ物はあるか」とおっしゃって、差し出された焼き魚を、みんなが見ている前で食べられました。このようなイエスさまの姿を見て、弟子たちはみんな、本当にイエスさまは復活して、生きておられるんだ、ということがよくわかりました。

イエスさまは、ご自分が弟子たちの前に姿を現したときに、弟子たちが怖がった理由を知ってい

ました。弟子たちは、イエスさまがおっしゃった言葉がわからないと、すぐ議論（話し合い）をするのです。イエスさまはもうずっと前に、「わたしは必ず多くの苦しみを受け、殺され、三日目に復活する」と弟子たちに話してくださっていました。でも、弟子たちは何度聞いても、そのことがわかりませんでした。本当にそのことが起こったその日、イエスさまが現れてくださったこのときも、弟子たちは話し合っていましたね。イエスさまの言葉は本当だ、必ずその通りになる、ということをお、弟子たちはちゃんと信じていなかったのをお、本当にイエスさまが生きて現れられたとき、怖くなってしまったのです。

今みんなも、ここで聖書のお話を聞いています。イエスさまが急にみんなの真ん中に立たれたらどうでしょう？びっくりするかな？うれしいかな？

イエスさまは、弟子たちに、ちゃんと聖書を読むように、と教えられました。44節に「モーセの律法と預言者の書と詩編」とあるのは、旧約聖書のことお。「旧約聖書には、わたしのことが書いてあるんですよ。そして、わたしについて旧約聖書に書いてある事柄は必ずすべて実現するんですよ」と言われました。新約聖書にイエスさまのことが書いてあるのはわかりますが、旧約聖書

のどこにイエスさまのことが書いてあるのか、わかりますか？ それは、イエスさまが弟子たちに教えてくださったように、私たちも、イエスさまのように聖書を知っている人から教わらなければなりません。だから、礼拝の場で、牧師先生が聖書の説き明かしをしてくださるのを聞く必要があります。また、自分でも、旧約聖書を何回も何回も読んでみてください。そうすると、神さまがどれだけご自分の民を愛して、救おうとされているか、また預言者たちがどれほど、その救い主（メシア）を待ち望んでいるかがわかってきます。そして、イエスさまこそが、神さまが遣わそうとしている救い主、預言者たちが待ち望んでいた救い主だったんだ、ということがわかってきます。

小さいときには、神さまが世界を造られた物語、ノアの箱舟の物語、アブラハムの物語、イサクやヤコブ、ヨセフの物語、出エジプトの物語、ギデオンのお話、サムソンのお話、ダビデ王のお話、ソロモン王のお話、エリヤやエリシャの物語、ダニエルの物語……というふうに、別々の物語がいっぱい入った本のような気がするかもしれません。初めはそれでよいのです。一つひとつの物語をよく覚えていてください。そのなかで神さまがその人たちとどんな約束をされたか、覚えていてください。やがて、小学校6年生くらいになって歴史を習い始めたら、全部のお話がつながっていることがわかってきます。また、聖霊なる神さまがみんなの心に働きかけてくださって、聖書の意味がもっと深くわかって、旧約聖書に書いてある事柄全部がイエスさまとつながっていることがわかるようになります。「ああ、そういうことだったのか！」という発見をたくさんできるようになりますから、「その話はもう何度も聞いたからいいや」などと思わないで、大きくなっても、教会に来て聖書のお話を聞くことをやめないでください。

イエスさまが、旧約聖書の中で神さまが約束されていた救い主、預言者たちが待ち望んでいた救い主だ、ということがみんなにわかってくる頃、イエスさまは、必ず、弟子たちにご自分の手や足や魚を食べるところをお見せになったのと同じよ

うな実感を、私たち一人一人に味わわせてくださいます。イエスさまの手や足には十字架につけられたときの釘の跡があったはずです。それを見せられたら、みんなはどう思うでしょう？ その釘の跡は、みんなの罪の身代わりになって十字架にかかってくくださったから残ってしまった釘跡です。それを知ったら、みんなはきっと、「ああ、イエスさま、ごめんなさい」と思うでしょう。

弟子たちもそうでした。弟子たちはイエスさまが十字架にかけられるとき、みんなイエスさまを見捨てて逃げてしまいましたから、「ごめんなさい」と言いたかったのです。よみがえって弟子たちの前に現れてくださったとき、イエスさまは、弟子たちのことを責めませんでした。そうではなくて、「あなたがたに平和があるように」と言ってくださいました。「あなたは赦されていますよ。だから安心していいですよ」と言ってくださったのです。「悪いことをしてしまったなあ」と思っているときに、こうやって赦してもらえると、本当にほっとします。イエスさまは、私たち一人一人に、この赦しを与えてくださいます。イエスさまがこのように赦してくださることを信じた人は、安心して、元気いっぱい生きていくことができるのです。

みんなは、聖書を読んでこのことを知ります。そして、イエスさまについて、また、自分の救いについて、聖書に書いてあることは本当ですよ、ということをお友だちや家族の人にも伝えたいと思います。ぜひそうしてください。

聖霊なる神さまが、小さい時から、みんなの心に働きかけてこられます。教会に行こうという気持ちにさせて、聖書に書いてあることがわかるようにしてくださいます。みんなの心の目を開いて、イエスさまの手足の釘跡が見えるようにしてくださいます。教会の皆の前で「イエスさまをわたしの救い主と信じます」と告白することができるようにしてくださいます。他の人にイエスさまのことを伝えるときに、言うべき言葉を教えてください。聖霊なる神さまの働きかけがあるかどうか、いつも気にしてみてください。(赤石めぐみ)

---

[今週の暗唱聖句] ルカによる福音書 24章48節

あなたがたはこれらのことの証人となる。

**〈ねらい〉**

イエスさまは、私たちの心を開いてくださり、聖書が語ることが分かるようにして下さることを知る。

**〈展開例〉**

## ・おはなしのヒント

ここでイエスさまがしてくださったことは何でしょうか。「そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた」（ルカ14:45）とあるように、私たちの「心の目」を開いてくださり、聖書のことがよく分かるようにして下さるということです。「肉の目」ではなく、「心の目」で聖書を見て、聞いていくことが求められています。

しかも、私たちが心を開くことができるのは、自分の力ではなく、神さまご自身が開いてくださるのです。だからこそ「神さま、私の心の目を開いてください」「イエスさまのことが分かるようにしてください」という祈りの言葉を、幼い頃から覚えることができたら幸いです。教会学校で、聖句はよく暗唱しますが、「主の祈り」を除いてあまり「祈りの言葉」を教えて、それを覚え、一緒に祈るということがあまりないのではないかと自分自身のことを含めて反省しています。神さまとの交わりに生かされている私たちにとって、御言葉を聞くことと共に、私たちもまた神さまに語りかけ、対話をしていくことなしに健やかな信仰を歩んでいくことはできません。そのような意味で、今日の箇所は、神さまに祈り、語りかけるべき大切な言葉がここにも示されているのではないのでしょうか。「私の心の目を開いてください！」。

また、私たちが神さまと対話するということは、神さまにお会いするということでもあります。いったいどうしたらイエスさまにお会いすることができるのでしょうか。子どもたちの中には、直接イエスさまのお姿を見たい。そのような仕方ではイエスさまにお会いしたいと願っている子も

いることでしょう。でも、イエスさまに出会うというのは、直接自分の目でイエスさまを見ることではありません。イエスさまの弟子たちを含め、地上でイエスさまを見た人がすぐに信じられたわけではないのです。それどころか十字架につけてしまいました。イエスさまを裏切って逃げて行った人も多くいました。だから、直接イエスさまを見るのが、イエスさまに出会ったことや信じていることができることに必ずしもつながるわけではないのです。

そもそも、今、イエスさまを信じている人たちは誰も直接イエスさまを見た人はいないのです。でも、ずっと教会はイエスさまを信じてきました。これはとても不思議なことです。「見ないのに信じる者は幸い」（ヨハネ20:29）とイエスさまがトマスに語られたように、2千年の間ずっと教会の人たちはイエスさまがお語りになった幸いの中に招かれ続けてきました。

教会学校の教師たちも、この幸いの中に招かれたのです。そして今度は、子どもたちを、イエスさまを信じる幸いの中に招く務めに召されているのです。時に心に疑いを持ったり、悲しみに心が閉ざされたこともあることでしょう。それゆえに、聖書を読めなくなったり、教会に通うのがしんどくなったこともあるでしょう。でも、その度に、イエスさまが私のところに来てくださり、平和を宣言してくださいました。心の目を開いて、イエスさまのことが、今よりももっと分かるようにしてくださいました。そのように、主の恵みを証言しつつ、あなたも私のようにイエスさまとお会いすることができる約束することができるのではないのでしょうか。

**〈祈り〉**

私の心の目を開いてください。そして聖書に書いているイエスさまのことがよく分かるように導いてください。

**〈展開例〉****1. 今週の暗唱聖句を一緒に読みましょう。**

「あなたがたはこれらのことの証人となる。」ルカ24:48

- ・「あなたがた」とは誰でしょう。
- お弟子さんたち。
- ・証人とはなんでしょう。
- 事実を証明する人。
- ・「これらのことの証人となる。」という意味は何ですか。
- イエス様について、「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる」という出来事を目撃し、宣べ伝える人になるということ。

**2. 説教を分かち合う。****2-1. イエス様のことを考えよう。**

- ・復活したイエス様はご自分が復活したことを、お弟子さんたちにどういう方法で理解させようと思いましたか。
- 実際に現われ、お弟子さんたちの真ん中に立って見せました。さらに、お話をし、手や足を見せ、焼いた魚を食べて見せました。
- ・イエス様は、ご自分のことが書かれている本を何度も説明しました。その本はなんですか。
- 旧約聖書。みんなが待ち望んでいたメシアがご自分だとわかってもらうために、何度もお話しをしてきました。
- ・イエス様は、誰がイエス様の証人になる、と言いましたか。
- 「あなたがた」と言いました。どこかの誰かだけが、ではなく、イエス様は、今お話しを聞いているみんながキリストの証人となることを望んでいます。
- ・イエス様は聖書の言葉が本当だということ、どのようにして教えてくださいませんか。
- イエス様の言葉を守ろうとするときに、聖霊によって守る力が与えられ、また聖霊の力が豊か

に注がれることによって教えられます。

**2-2. お弟子さんたちのことを考えよう。**

- ・復活したイエス様を見たときお弟子さんたちは何を思ったでしょう。
- 亡霊を見ているように思った。
- ・亡霊を見ているようだったということは、復活を信じることができたのですか。
- まだ死んだままのイエス様を考えていました。
- ・お弟子さんたちは、イエス様が復活したことを受け入れることができて、なんで復活できたのかは最初はわかりませんでした。分かるようになった理由はなんですか。
- 旧約聖書を通してイエス様のことが書かれていることを教えられて、気が付いたから（46節以降）。
- ・お弟子さんたちは、旧約聖書からイエス様が救い主だとわかったとき理解したとき、イエス様のこれまでの働きが何のためだとわかったのですか。
- 罪から救い出すための働きであること。

**2-3. わたしたちのことを考えよう。**

- ・イエス様はお弟子さんたちをキリストの証人にしたように、聖書を読んでイエス様を信じるみんながキリストの証人になれるだけの恵みをくださっていますし、これからも与えてくださいます。そして将来、みんなはイエス様に直接お会いします。イエス様は、私たちが良く証しをしたかどうかご存じです。わたしたちの周りに、証しできる人は、どんな人がいますか。一人一人をあげてみましょう。
- そしてその人にお伝えできるようにみんなでお互いのために祈り合ひましょう。

**3. ゲーム**

UNO やトランプ。一番負けた人は、罰ゲームで、勝った人たちのいいところを、一つずつほめなければいけない。